

日本および朝鮮産
ヒメギングチバチ *Crossocerus* 属の分類

常 木 勝 次

Guide to the study of Hymenoptera (IX)

(3) Crabroninae

(vi) Revised key to the species of *Crossocerus* of Japan and Korea

By Katsuji Tsuneki

生物研究(福井), 第3巻第4号, 67-77頁別刷
Reprinted from The Life Study (Fukui), Vol. III, No. 4.

October 31, 1959.

蜂類研究手引 (9)

(3) ギングチバチ亜科

(VI) 日本および朝鮮産ヒメギングチバチ (*Crossocerus*) 属の分類

常 木 勝 次

Revised Key to the Species of *Crossocerus* occurring in Japan and Korea

By Katsuji Tsuneki

ギングチバチ類の中で最も種類が多く分類の困難なものは今回とりあげたヒメギングチバチ *Crossocerus* に属するものである。これらは中形ないし小形のギングチで、体の大部分が黒色で見栄えのしないものが多いが、その習性は変化に富み、特に狩の対象となる昆虫が非常に多くの目を含む種にわたることは驚くほどで、習性研究上最も興味深いグループである。その習性のあらまきは次号で述べることとして、今回はそれらの種の分類についての検索表を掲げる。なおこの検索表は以前欧文で発表したものの追加および訂正を含むものであって、この方が一層完全かつ勝れているものであることを付言する。

種 の 検 索 表 (禁転載)

- 1 ♂ (腹端に明瞭な尾域はない。可視腹節数7, 触角節数13) 2
- ♀ (腹端に三角形ないし溝状の明瞭な尾域がある。可視腹節数6, 触角節数12) 36
- 2 腹部に黄色ないし白色の斑紋がある 3
- 腹部に斑紋はない 9
- 3 腹部の斑紋は白または白味が強い 4
- 腹部の斑紋は黄色 6
- 4 脚は正常で変形していない (両眼内側に黄条がある, 頭楯は三角状で黄, 腹背に1~3対の白紋があるが, 白紋を全く欠くものが普通である) 体長5—6.7mm——定山溪・十和田・日光・白山 (市ノ瀬・小池)・京都・ウスリー・欧州
- カゲロウギングチ (*Coelocrabro*) *walkeri* (Shuckard, 1937)
- 脚は甚しく変形している 5
- 5 後脛節末端に2本の鈎状の棘がある, その脛節刺の1本は長く第1跗節の2/3に達する (第3腹節に斑紋を欠く, 後脛節基部内面に小棘はない, 後基節の突起は先端の丸い三角状) 体長8—10mm, 樺太・北海道・千島・本州・四国・九州・ウスリー (原種はウラル)
- スズキギングチ (*Cuphopterus*) *monstrosus suzukii* (Matsumura, 1912)
- 後脛節末端に鈎状棘を欠く, 後脛節刺は余り長くなくやや葉状 (第3腹節に白紋がある, 後脛節基部内面に小棘がある, 後基節の突起は梯形) 体長8—10mm, 北海道・本州
- ハクサンギングチ (*Guphopterus*) *hakusanus* Tsuneki, 1954
- 6 第1腹節は長さ先端の中とはほぼ同じ, 第2腹節に黄紋がある (第7腹面節に1対の歯状突起があり, その中央は稜状に隆起している前脛節に棘を欠く——図 24a, 24b*) 体長6—10mm, 樺太・北海道・本州・四国 (朝鮮・欧州のものはそれぞれ別亜種)

キマダラギングチ (*Blepharipus*) *vagabundus yamatonicus* (Tsuneki, 1947)

* 欧州産の原種には基部下面に長い棘がある, 朝鮮の亜種 *chosenensis* Tsuneki ではそこに短棘がある。

- 第1腹節は長さ先端の中より大, 第2腹節に黄紋はない 7
- 7 脚は変形していない(大顎も変形せず先端二又し内縁に歯状突起を欠く, 触角鞭節の下面は房毛で縁どられている。頭頂は広く浅く凹むが正中線は隆起しない, 中節(前伸腹節)の心形域は明瞭に溝で囲まれている, 第3腹節に1対の黄紋がある)体長約11mm, 北海道・本州・四国・朝鮮, 稀種

アイヌギングチ (*Ainocrabro*) *aino* (Tsuneki, 1947)

- 脚・大顎は変形している 8
- 8 上額前縁は角ばりやや稜状に下額(顔)と境されている(図23), 前脚転節下面にやや四角形の膜質突起がある(図17)(後基節突起は三角状, 細く尖る(図18)中胸側の歯状突起は明瞭, 腹節3・4, 時として1にも, 両側紋があり尾域基部も黄, 前脚: 図16, 中脚: 図19), 体長8—9.5mm, 北海道・本州・四国・朝鮮, 極めてまれ

ヤノギングチ (*Cuphopterus*) *yanoi* (Tsuneki, 1947)

- 上額前縁は丸く下額に連なる。前転節下面は稜状となり基部が僅かに丸く突起する(後基節下面の突起は三角状で大きく扁平先端は丸い, 腹節1の黄紋は両側で縦にのびる, 腹節3に1対の黄紋, 6・7にも黄斑がある)体長7—8.5mm, 樺太・千島・北海道・本州・朝鮮, 少ない

サツポロギングチ (*Cuphopterus*) *dimidiatus sapporoensis* (Kohl, 1915)

- 9 胸部下面は白色の長軟毛で被われている, 大顎内縁中央に小歯状突起がある, 中胸側歯がある…亜属 *Ablepharipus* 10

- 胸下に白色長軟毛を欠く, 大顎内縁歯もない, 中胸側歯は有ったり無かったり 13

- 10 頭部下面に白色長軟毛を欠く, 中脚腿節および脛節は太くなり脛節は腿節より明らかに短く先端切断状, その脛節刺を欠き, 第1跗節はやや曲がる(多くは後頭縁の稜線は頭部下面で切断状に終る, 肩板・中脛節外面は黄)体長5—6mm, 欧州・朝鮮・樺太

リンデンギングチ (*Ablepharipus*) *podagricus* (Van der Linden, 1892)

- 頭部下面に長毛叢をそなえる, 中脛節は正常で脛節刺もある, その第1跗節はまっすぐ(後頭縁の稜は頭部下面で徐々に低くなり終る) 11

- 11 大きさ4—5.5mm, 頭部は上面より見てほぼ方形, 中胸—楯板間の溝に刻み目はない, 中節上方は上面観でほぼ三角形, 両側は稜状となり, その下面は深くえぐられている, 後胸側板—中節側間の細線は溝状にえぐられていない, 樺太・北海道・千島・本州・北海道の山地に普通, 本州にまれ

シブヤギングチ (*Ablepharipus*) *shibuyai* (Iwata, 1934)

- 大きさ5.5—7mm, 頭は横に巾広い, 中胸—楯板間の溝に刻み目がある, 中節上方は円く, 両側縁は稜状とならず, その下面もえぐられていない。後胸側板—中節側の間の細線の上部1/3は深くえぐられている。 12

- 12 肩板および中脛節の(基部を除く)大部は黒色(中節心形域は弱い細線で囲まれている)体長約6mm, 欧州・北海道・千島・本州, まれ

スミスギングチ (*Ablepharipus*) *assimilis* (Smith, 1856)

(=*tirolensis* Kohl, 1877)

- 肩板と中脛節外面は黄色(中節心形域は弱細線で囲まれ, あるいは全く囲まれていない)体長5—5.5mm, 欧州(極めて稀)北海道・本州(少ない)

ハトガユギングチ (*Ablepharipus*) *congener* (Dahlbom, 1845)

(本種はスミスギングチの単なる変異かも知れない)

- 13 腹端節背面の点刻はその前の節の点刻と比べてほとんど変わらない…亜属 *Coelocrabro* 14

- 腹端節背面の点刻はその前の節の点刻と比べて明らかにより強くより大きい…亜属 *Crossocerus* ... 29

- 14 前脚転節・腿節・脛節下面に長毛が生えている(図10, 11), 大きさ7—8.5mm, 欧州・樺太・千島

- ・北海道・本州・屋久島, ややまれ
ヒゲアシギングチ (*Coelocrabro*) *barbipes* (Dahlbom, 1845)
 - 前脚下面に長毛はない 15
 - 15 前脚脛節・第1附節は扁平に拡がり周辺部は白く縁どられる (図1), 触角先端は切断状 (図2), 体長6.5—8mm, 欧州・ウスリー・樺太・千島・北海道・本州, 普通種
ヒラアシギングチ (*Coelocrabro*) *cetratus* (Shuckard, 1837)
 - 前脛節は正常か僅かに拡がるのみ 16
 - 16 前脚第1附節は扁平に拡がる 17
 - 前脚第1脛節は正常 18
 - 17 前脚第1附節の拡がりは顕著で扇状となる (図27), 中節心形域は明瞭に境され平滑である。触角末端は細く丸く終る (大顎・触角第1節前面・脚附節の全部・脛節の一部は黄) 体長6mm 前後, 北海道・樺太・本州 (日光), 極めてまれ
フタツバギングチ (*Coelocrabro*) *ambiguus hokkaidoensis* Tsuneki, 1954
 - 前脚第1附節の拡がり僅少 (図30), 中節心形域は明瞭に境されるが表面に細条がある, 触角末端は切断状 (附節若干を除き全身黒, 頭楯前縁の形状には変異がある) 体長6.3—7mm, 欧州・ウスリー・樺太・北海道 (層雲峡), 日本では極めてまれ
スミゾメギングチ (*Coelocrabro*) *leucostomus* (Linné, 1758)
(=*carbonarius* Dahlbom, 1838)
 - 18 中節心形域は完全かつ明瞭に溝で囲まれている 19
 - 中節心形域は全く溝で囲まれないか, 不明瞭か不完全に囲まれている。 22
 - 19 腹端節に梯形の尾域があり表面平坦, 各腹節は膨隆し, 節間は少しくくくれる。(頭楯は前縁三歯状, 前・中脚の大部は淡黄, 脛節は黄褐, 後脚にも淡黄部が多い, 腹部側面と下面に黄赤部がある) 体長4mm, 日光, 極めてまれ
タナカギングチ (*Coelocrabro*) *tanakai* Tsuneki, 1954
 - 腹端節に尾域はない, 腹節間はくくれていない 20
 - 20 第7腹面節に1対の歯状突起と中央隆起とがある, 前胸背両側は中央で少しくくくれる (図14) (頭楯は中広く突出し先端鈍三歯状, 頭楯・顔は黒) 体長6.3—8mm, アムール・ウスリー・朝鮮・北海道・千島・本州, ややまれ
アムールギングチ (*Coelocrabro*) *amurensis* (Kohl, 1915)
 - 第7腹面節に突起はない 21
 - 21 両眼内縁線に沿って黄条がある, 頭楯は三角状に突出して黄色 (個体により腹部に斑紋をもつことがある) 体長5—7mm, 欧州・ウスリー・北海道・本州, 日光に比較的多いが一般にはまれ
カゲロウギングチ (*Coelocrabro*) *walkeri* (Shuckard, 1837)
 - 両眼内縁に沿う黄条はない, 頭楯は中広く突出し前縁に短い三突起をそなえる。(前胸背前縁は反りかえっている, 第1腹節は先端の中より著しく長い, 頭部は上面観で方形に近い, 各腹節後縁は茶色ないし赤黄色) 体長4—4.5mm, 日光 (中禅寺湖畔) 極めてまれ。
チュウゼンシギングチ (*Coelocrabro*) *tyuzendzianus* Tsuneki, 1954
 - 22 後脛節は甚だしく球棍状*, その第1附節もまた肥大する 23
 - 後脛節は顕著に球棍状ではなく, 第1附節も特に肥大していない 27
 - 23 大顎は黄色 (その他の特徴は上記を参照)
- * 遊戯の樺運び, 棒倒しなどに使う棍棒のような形で, 握りは細く先太となり先端は少し細く丸く終る。横断面で各所とも円形となる。

チュウセンジギングチ (*Coelocrabro*) *tyuzendzianus* Tsuneki, 1954

- 大顎は黒色 …………… 24
- 24 後脛節外面に短棘毛が散布している, 触角末端はやや切断状(中胸側歯はない, 中節背両側は後部の
み稜で境される) …………… 25
- 後脛節外面に棘毛はない, 触角末端は正常に丸く終る …………… 26

ニツコウギングチ (*Coelocrabro*) *nikkoensis* Tsuneki et Tanaka, 1955

- 触角鞭節下面に弱い縦稜がある, 各脛節刺と第1附節は黄白, 体長6—7mm, 本州(日光), まれ
一・千島・北海道・本州(日光), 極めてまれ

スギハラギングチ (*Coelocrabro*) *pauxillus* (Gussakovskij, 1933)

(= *sugiharai* Iwata, 1938)

- 26 頭楯の形: 図4(後脛節基部を除き原則として脚は黒色) 体長5.2—7.3mm, 欧州・朝鮮・本州・北
海道, まれ

クチプトギングチ (*Coelocrabro*) *cinxius* (Dahlbom, 1838)

- 頭楯の形: 図5(前, 中附節・前脛節前面・後脛節基部は黄, 時として中脛節基部も黄白) 体長5—
7.3mm, 欧州・日本の四大島全部, 多くない

アタマギングチ (*Coelocrabro*) *capitosus* (Shuckard, 1837)

- 27 触角末端は丸く終る, 頭・胸部にやや長い軟毛が多少密に生えている。頭楯前縁は鈍三歯状(中胸側
歯は有ったり無かったり, 心形域は時々後方だけ不完全に細溝で囲まれていることがある) 体長6—7.5
mm, 欧州・北海道・千島・本州北半および高地, やや少ないが珍しくはない

ケブカギングチ (*Coelocrabro*) *pubescens* (Shuckard, 1837)

- 触角末端は近切断状, 頭胸部の毛は短く少ない, 頭楯前縁は鈍三歯状でない …………… 28
- 28 頭楯は三角状に突出(図22), 中節背両側に縦稜はない, 第3触角節は長さ中とほぼ等しい。(前・
中脚の大部・後脚脛節基部・附節の基方等は黄) 体長5.0—6.5, 北海道(札幌・定山溪)・本州(那
須), 極めてまれ

キユビギングチ (*Coelocrabro*) *flavitarisus* (Tsuneki, 1947)

- 頭楯は中広く円く長く突出(僅かに鈍三歯の痕跡が見られる), 中節背両側に側面との境となる縦稜
がある, 第3触角節は先端の中約1.5倍, 体長5—6mm, 樺太・本州(十和田・日光・白山), まれ
原種は欧州産

ガロアギングチ (*Coelocrabro*) *heydenii* Kohl, 1880, subsp.

- 29 前脛節は団扇状に広がる(前脛節・第1附節もかなり広がる, 心形域は粗大点刻列で境される, 頭楯
・大顎の大部分・触角柄節・前胸下面・中胸容腿域・肩板・前胸背および楯板・後楯板の紋は橙黄色)
体長7mm, 欧州, 朝鮮

ウチワギングチ (*Crossocerus*) *palmipes chosensis* Tsuneki, 1957

- 前脛節は正常かまたは多少拡張するが団扇状ではない …………… 30
- 30 前脚第1附節は多少とも扁平となり広がる …………… 31
- 前脚第1附節は正常 …………… 32
- 31 第1附節の広がり顕著で扇状(図28), 中胸側歯は明瞭(前脛・脛節も多少拡張している, 心形域
は溝で囲まれ表面に細条がある, 前胸背・楯板に黄斑あり, 時に肩板も黄, 第3腹面節も黄) 体長5—
6.5mm, 欧州, 朝鮮(本州の記録あるも疑問)

モグラギングチ (*Crossocerus*) *tarsatus* (Shuckard, 1837)

(= *palmipes* auctt., nec Linné 1767)

- 第1附節の広がりは余り顕著ではない(図29)(前腿節・脛節もまた多少広がる, 心形域は刻み目のある細溝で囲まれている, 中胸側の歯状突起はあるが短い, 前胸・楯板に原則として黄斑がある, 脚にも黄色部が多い) 体長5—6mm, 欧州・北アフリカ・樺太・千島・北海道・本州(木曾駒ヶ岳), ややまれ

タイセツギングチ (*Crossocerus*) *varus* Lepeletier et Brullé, 1834
(=*varius* auctt)

(本誌6号, 北海道採蜂記でファルゴギングチとしたものを改称した。多産地大雪山にちなむ)

- 32 中腿節下面基部に1本の棘がある(図12)(心形域はギザのある溝で囲まれる, 大顎・口ひげ・触角柄節前面および脚は広く黄色) 体長5—6mm, 欧州・北アフリカ・北満・朝鮮・本州・北海道, 少ないが福井辺では平地にもおる

トゲアシギングチ (*Crossocerus*) *denticrus* Herrich-Schaeffer, 1841

- 中腿節下面に棘はない 33
- 33 第5腹面節後縁の中央は鐘形にえぐられている。(図25)(心形域はギザのある溝で囲まれ, 表面に細条があるが, 時に条を欠くこともある, 触角末端は切断状, 大顎, 頬下面の2紋(ないこともある)・触角柄節前面・脚の大部等は黄) 体長7—8mm, 北蒙古・ウスリー・朝鮮・樺太・北海道・本州(日光・小池・那須)・四国・屋久島, 多くない

エグレギングチ (*Crossocerus*) *emarginatus* (Kohl, 1915)
(=*pacificus* Gussakovskij, 1933)

- 第5腹面節後縁に切りこみはないか, あって小さくまた鐘形でない 34
- 34 前胸はよく発達し前側角は丸くまたは尖って強く突出する(図21)(第5腹面節後縁に小さな三角状の切りこみがある, 大顎・頭楯(黒色のこともある)・頬下面の紋等は黄, 触角柄節は通常黒) 体長6—7mm, 北海道・本州・四国, まれ

ヤスマツギングチ (*Crossocerus*) *yasumatsui* (Tsuneki, 1947)

- 前胸前側角は突出せず丸味をもつ(第5腹面節後縁は直線状) 35
- 35 触角末端は近切断状, 腹端節は黒色, 中胸側板はかなり密に多少条刻状に点刻される(大顎は黒, 触角柄節前面は黄) 体長3—5mm, 北海道(札幌), まれ

クラゲギングチ (*Crossocerus*) *uchidai* (Tsuneki, 1947)

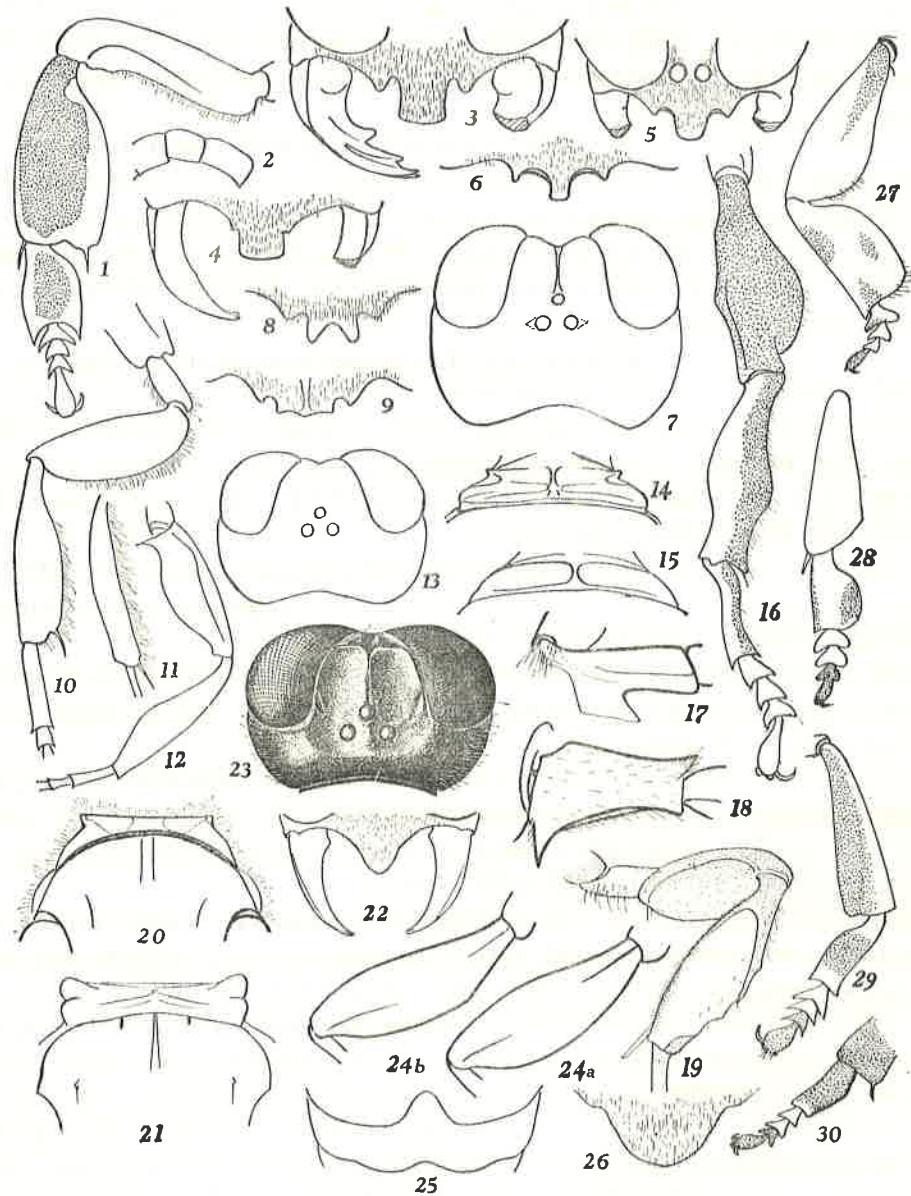
- 触角末端は正常, 腹端節の先半は赤褐色, 中胸側は細かく疎らに点刻される(大顎は時に黄色) 体長5—5.5mm, 欧州・樺太・本州(東京・池田・宇都宮・福井)・九州・まれ

ガケギングチ (*Crossocerus*) *wesmaeli* (Van der Linden, 1829)

- 36 腹部に黄または白の斑紋がある 37
- 腹部に黄または白の斑紋はない 43
- 37 腹部の斑紋は白色 38
- 腹部の斑紋は黄色 40
- 38 頭楯は黄または黄白, 両眼内縁に同色の条がある(頭頂は特に凹むことなく点刻がある, 第1腹節は長さ先端の中とはほぼ同じ, 尾域は細長く突出しその部は溝状にえぐられる, 腹部は全体黒色のものが普通) 体長6.5—8.5mm, 欧州・ウスリー・北海道・本州(十和田・日光・白山——市ノ瀬・小池——京都山地), まれ

カゲロウギングチ (*Coelocrabro*) *walkeri* (Shuckard, 1837)

- 頭楯・顔面は黒(頭頂は平滑で少しく凹んでいるが正中線は隆起する, 第1腹節は長く後縁および両側は白, 尾域は三角状で先端は丸細く平ら, 基部がやや膨隆する, 心形域は細溝で明瞭に境される) ... 39
- 39 中胸側に短い(時として非常に弱い)歯状突起がある, 後脛節刺の長い方も次種より比較的短く第



1, ヒラアシギングチ♂前脚. 2, 同触角末端. 3, クチプトギングチ♀頭楯. 4, 同♂. 5, アタマギングチ♂頭楯. 6, 同♀. 7, 同♀頭形. 8, フタツバギングチ♀頭楯. 9, アムールギングチ♀頭楯. 10, ヒゲアシギングチ♂前脚. 11, 同前脛節側面観. 12, トゲアシギングチ♂中脚. 13, クチプトギングチ♀頭部. 14, アムールギングチ♀♂前胸. 15, スミゾメギングチ♀♂前胸. 16, ヤノギングチ♂前脚. 17, 同前脛節. 18, 同後基節. 19, 同中脚. 20, ヤスマツギングチ♀前中胸背. 21, 同♂. 22, キュビギングチ♀♂頭楯, ♀大顎. 23, ヤノギングチ♀頭部. 24a, 24b, キマダラギングチ前腿節. 25, エグレギングチ第5・6腹面節. 26, スミゾメギングチ頭楯の一形. 27, フタツバギングチ♂前脚. 28, モグラギングチ♂前脚. 29, タイセツギングチ♂前脚. 30, スミゾメギングチ♂前脚.

1 脚節の半ばを僅かに越すかそれより短い, また次種より巾広い。次種より白色部が多く尾域は原則として白色 (稀に例外あり) 体長 7—10mm, (平均的に次種より小さい), 北海道・本州の山地 (九州・四国?)

ハクサンギングチ (*Cuphopterus hakusanus* Tsuneki, 1954)

- 中胸側歯はない, 後脛節刺は前種より長く, 第 1 脚節の 2/3 に達し, また前種におけるより巾狭い, 尾域は原則として黒色 (まれに小白斑のあることがあるが全面白のことはない) 体長 8.5—13mm, ウスリー (?)・樺太・千島・北海道・本州・四国・九州

スズキギングチ (*Cuphopterus monstrosus suzukii* (Matsumura, 1912)

- 40 第 1 腹節は長さ先端の巾とはほぼ同じ, 尾域は三角状, 先端はトイ状にえぐられて少しく突出, 基部は膨隆し中央線に縦稜がある (中能側歯がある, 心形域は明瞭に境される, 触角柄節・第 2, 3 腹節の 2 側紋・第 5 腹節の 2 紋または 1 斑等は黄) 体長 7—11.5mm, 樺太・千島・北海道・本州・四国 (九州?)

キマダラギングチ (*Blepharipus vagabundus yamatonicus* (Tsuneki, 1947)

- 第 1 腹節は先端の巾より長い, 尾域基部に縦稜はない …………… 41
- 41 前胸背前側角は角ばる, 中脛節は下面中央より少し先の部で急に細くなる, 頭頂に点刻あり光沢を欠く (大顎の一部・時に頭楯上の 2 紋・まれに前胸背の 2 点・第 3 腹背節の 2 大紋・前中脚の一部等は黄) 体長 10.5—13mm, 北海道・本州・四国・朝鮮, 非常に少ない

アイヌギングチ (*Ainocrabro aino* (Tsuneki, 1947)

- 前胸背前側角は丸味をもつ, 中脛節下面は前半で急に細くなることはない, 頭頂はやや凹み滑次 … 42
- 42 中胸側歯は明瞭, 上額前縁は鋭く境され, その中央の溝の輪廓は明瞭 (図 23), 第 1 腹節は原則として無紋, 体長 10—12mm, 北海道 (札幌・層雲峡)・四国 (石鎚)・本州 (日光)・朝鮮, 極めてまれ

ヤノギングチ (*Cuphopterus yanoi* (Tsuneki, 1947)

- 中胸側歯はない, 中節背後両側の縦稜は後方でのみ認められる, 上額前縁の境は鋭くない, その中央溝の輪廓も明瞭でない, 第 1 腹節に原則として後縁と両側にわたる U 字形黄紋がある, 体長 7.3—11mm, 樺太・北海道・千島・本州 (北方および高地)・朝鮮, 少ない

サツボロギングチ (*Cuphopterus dimidiatus sapporoensis* (Kohl, 1915)

- 43 尾域は (少なくともその先端部において) トイ状にえぐれている …………… 44
- 尾域は三角状で平坦——亜属 *Crossocerus* …………… 63
- 44 尾域は逆クローバ (Y 字) 形にえぐられる, 大顎の内縁中央に 1 小歯がある, 中胸側歯は明瞭——亜属 *Ablepharipus* …………… 45
- 尾域のえぐれはトイ状, 大顎内縁中央に歯状突起を欠く, 中胸側歯はあったりなかったり——亜属 *Coelocrabro* …………… 48
- 45 大きさ 3.5—5.2mm, 頭部は上面観ではほぼ方形, 中胸背板と楯板間の溝に刻み目はない, 中節上方は上面観で近三角形, 両側は稜状となりその下面は深くえぐられる, 後胸側板と中節側間の細線は溝状とならず (心形域は平滑, 囲溝と正中溝とを欠く), 樺太・北海道・千島・本州, 北海道山地に普通, 本州にまれ

シブヤギングチ (*Ablepharipus shibuyai* (Iwata, 1934)

- 大きさ 5.5—9mm, 頭部は上面より見て長さより巾が大, 中胸背板と楯板間の溝にギザがある, 中節上方は丸く両側は稜状とならない, 中節側もえぐれていない (心形域の囲溝と正中溝とはあったりなかったり) …………… 46
- 46 肩板と中脛節 (基部を除く) とは黒, 体長 6—9mm, (心形域は弱く細溝で囲まれる, 前胸背と楯板とは原則として無紋), 九州・北海道・千島・本州, まれ

スミスギングチ (*Ablepharipus*) *assimilis* (Smith, 1856)
(=*tiroloensis* Kohl, 1877)

- 肩板と中脛節外面は黄, 体長 5.5-7.5mm, 47
- 47 後頭稜の稜は頭下において突起状に終る, 心形域は明瞭な溝で囲まれる(尾域の三葉状凹みの上縁はほぼ直線状, 頭部と中胸背とは微細彫刻があって光沢を欠き点刻を粗布する, 中節側面は細密に条刻される) 体長 6-6.5mm, 欧州・北アフリカ・朝鮮・樺太

リンデンギングチ (*Ablepharipus*) *podagricus* (Van der Linden, 1829)

- 後頭稜は頭下で徐々に消える, 心形域の囲溝は微弱かまたはない。(尾域の凹みはY状, 頭部・中胸背の基礎彫刻は前種より一層微細でややつやがある, 頭頂に点刻を欠き中節側面は中央に条刻を欠く) 体長 5.5-7.5mm, 欧州(極めてまれ)・北海道・本州(中北部高地にまれでない)

ハトガユギングチ (*Ablepharipus*) *congener* (Dahlbom, 1845)

- 48 後脛節外面に短棘毛を欠く(後脛節は甚しく球棍状(p.69の脚註を見よ)となりその第1附節も太い)・49
- 後脛節外面に多少の短棘毛がある 50
- 49 頭楯の形: 図3, 頭形: 図13, 後脛節は黒, 頭頂は光沢を欠く, 体長 6.5-8 mm, 欧州・北海道・本州, まれ

クチプトギングチ (*Coelocrabro*) *cinxius* (Dahlbom, 1838)

- 頭楯: 図6, 頭形はほぼ方形(図7), 後脛節は多くの場合白, 頭頂は光沢に富む, 体長 5.2-8.5 mm, 欧州・北海道・本州・四国・九州, 多くない

アタマギングチ (*Coelocrabro*) *capitosus* (Shuckard, 1837)

- 50 顔面の両眼内縁にそって黄条がある(頭楯は黄, 尾域の両側に多数の剛毛をそなえる, 中胸側歯を欠く, 心形域は不完全な囲溝をもつか, または全くもたない, その表面は光る) 体長 6.7-8.5mm, 欧州・北海道・本州, まれ

カゲロウギングチ (*Coelocrabro*) *walkeri* (Shuckard, 1837)

- 顔面は全体黒色 51
- 51 心形域は明瞭かつ完全にギザのある溝で囲まれる 52
- 心形域に囲溝はないか, 不完全または不明瞭な溝で囲まれる 56
- 52 頭楯は短く前縁中央に2歯が突出する。(図8)(各脚とも広く黄色部をもつ, 後頭稜は頭下で徐々に終り原種の如く突起して終ることはない) 体長 6-7 mm, 北海道・樺太・本州(日光), 極めてまれ

フタツバギングチ (*Coelocrabro*) *ambiguus hokkaidoensis* Tsuneki, 1954

- 頭楯の形状は異なる 53
- 53 第1腹節は長さその後端の中より明らかに大, 中胸側歯を欠く, 中胸は光沢に富み前方に細点刻を粗布するだけである, 尾域は先端部の中が比較的大きく, えぐれは弱い(脚は広く黄又は赤黄, 頭部は滑沢, 触角柄節前面は白, 肩板は黄褐, 腹側, 腹下面に黄赤色部が広くひろがる, 翅は少しく黄色がかかる, 頭楯前縁は短三歯状, 後脛節は強く球棍状となり外面に短棘毛を粗布する) 体長 6 mm, 本州(日光), 極めてまれ

タナカギングチ (*Coelocrabro*) *tanakai* Tsuneki, 1954

- 第1腹節は先端の中と同長か僅かに長い, 中胸側歯がある, 中胸背には細点刻がかなり密に分布し光らず, 尾域は先細となって突出しトイ状にえぐられている。 54
- 54 脚に黄色部が多い(頭楯の形状はアムールギングチ(図9)に類するが中央部の突出度は一層小, 中胸側は丸味をもつ, 各腹節は少しく膨隆, 後脛節外面の短棘毛は強い, 肩板は黄白) 体長 6.5mm, 朝鮮

タケウチギングチ (*Coelocrabro*) *takeuchii* Tsuneki, 1956

- 脚は大部分黒色 55
- 55 前胸は両側中央で少しくくれる(図14), 頭楯は第9図, 触角柄節前面, 後脛節基部は汚黄色, 後脛節刺は黒褐, 心形域は光沢あり, 中胸側歯は顕著(後脛節は多少棍棒状, その第1附節も幾分太い) 体長7.5—9.5mm, アムール・ウスリー・北海道・千島・本州, ややまれ

アムールギングチ (*Coelocrabro*) *amurensis* (Kohl, 1915)

- 前胸背両側にくれない(図15), 頭楯は丸味をもって突出(図20)または前縁微弱な三齒状となる, 後脛節刺白色のほか全身黒, 心形域は滑沢ならず, 中胸側歯は短い(後脛節は甚しく球棍状, その第1附節も目立って太い) 体長6.8—7.5mm, 欧州・ウスリー・樺太・北海道(極めてまれ)

スミゾメギングチ (*Coelocrabro*) *leucostomus* (Linné, 1758)

(=*carbonarius* Dahlbom, 1838)

- 56 心形域は部分的に, または微弱な細溝に不完全に阻まれる(困溝は後方で明瞭前方で消滅または不明瞭となる傾向がある) 57
- 心形域は全く(またはほとんど全く)溝で囲まれていない 60
- 57 大顎は大部分黄, 脚に黄色部が多い(頭は厚くほぼ方形, 前胸は隆起し両側角は尖る, 前胸・楯板に黄斑があることがある, 中胸側歯は明瞭), 体長4—4.5mm, 日光, 極めてまれ

チュウゼンシギングチ (*Coelocrabro*) *tyuzendzianus* Tsuneki, 1954

- 大顎は黒色, 脚も全部または大部分黒色 58
- 58 中胸側歯を欠く, 頭頂は明らかに点刻され光沢に乏しい, 上額部は細密点刻をもち光沢を欠く, 心形域は微細彫刻があり光沢がない(全体黒色), 体長7—10mm, 欧州・樺太・千島・北海道・本州・屋久島, ややまれ

ヒゲアシギングチ (*Coelocrabro*) *barbipes* (Dahlbom, 1845)

- 中胸側歯がある, 頭頂はほとんど点刻らしいものを持たず光沢がある, 上額も小点刻まばらで光沢に富む, 心形域は滑沢 59
- 59 後脚第1附節の長さは後脛節の半分ほどで先端の中約5倍, 前脛節前面・前中附節・中後脛節の両端等は黄褐, 心形域は細条なく滑沢, 体長5.5—6.7mm, 樺太・本州, まれ, 原種は欧州

ガロアシギングチ (*Coelocrabro*) *hydenii* Kohl, 1880, subsp.

- 後脚第1附節の長さは後脛節の半ばより大で先端の中約7倍, 脚の附節は黒褐, その他全身黒, 心形域は光沢はあるが部分的に細条がある, 体長5.5—7mm, 本州(日光), まれ

ニッコウギングチ (*Coelocrabro*) *nikkoensis* Tsuneki et Tanaka, 1955

- 60 頭楯の前縁は切断状(全体黒色, 脛節刺のみ褐色, 中胸側歯を欠く) 体長7—9.5mm, 欧州・ウスリー・樺太・千島・北海道・本州(中・北部), 山地に普通

ヒラアシギングチ (*Coelocrabro*) *cetratus* (Shuckard, 1837)

- 頭楯前縁は切断状でない 61
- 61 頭楯は三角状に突出(図22)(頭・胸部光沢あり, 触角柄節前面, 前胸・肩板・楯板上の2紋・脚の広い部分等は黄色, 中胸側歯は不明瞭, 尾域は正三角形に近く丸く膨隆, 先端は急に狭まり少しくえぐれる) 体長約5mm, 北海道・本州(那須)極めてまれ

キユビギングチ (*Coelocrabro*) *flavitarsus* (Tsuneki, 1947)

- 頭楯は前縁鈍三齒状(脚に多少黄斑がある) 62
- 62 後脛節は著しく球棍状(p.69の脚註を見よ), 第1腹節の長さは先端の中約1.5倍, 頭・胸部の軟毛は短い, 体長6.5mm, ウスリー・千島・北海道・本州(日光), 極めてまれ

スギハラギングチ (*Coelocrabro*) *pauillus* (Gussakovskij, 1933)

(=sugiharai Iwata, 1938)

- 後脛節は著しく球根状ではない, 第1腹節の長さは先端の中とほぼ同じ, 頭・胸部の軟毛は目立って長い, 体長6—8mm, 欧州・北海道・千島・本州(中・北部・高地), やや少ないが珍種ではない
 ケブカギングチ (*Coelocrabro pubescens* (Shuckard, 1837))
- 63 尾域の輪廓は弱く正中線に沿ってゆるく隆起する, 表面は微細点刻を密布するのみで全く光沢を欠く(中胸側歯はない, 心形域は全く境されない, 頭楯は三角状に突出, 脚は後腿と後脛の先端部を除き黄色, 触角柄節前面・前胸・楯板上の大紋・肩板・翅底鱗等も黄), 体長5mm, 十和田, 極めてまれ。
 トワダギングチ (*Crossocerus?*) *leclercqi* Tsuneki
- 尾域は稜で明瞭に境され表面は平坦, 粗大点刻を散布する 64
- 64 中胸側歯は明瞭, 心形域の囲溝は前方で不明瞭となる傾向がある 65
- 中胸側歯は認めがたい, 心形域囲溝は明瞭で完全 67
- 65 大顎は黄色, 頭楯前縁は広く突出しその両側にえぐれがあり, えぐれの両端は歯状に突出する。(前胸前縁は両側で稜状となりその後方は深くえぐれる, 第1腹節は長さ巾よりはるかに大, 頭楯に2黄紋があることが多い(原種では全体黄), 体・脚の斑紋は *varus* に類する) 体長6.5—7.5mm, 朝鮮
 ウチワギングチ (*Crossocerus palmipes* (Linné 1767) nec auctt.)
- 大顎は黒色, 頭楯前縁の突出部の両側にえぐれはない。(前胸前縁の構造は前種に類するがはるかに弱い) 66
- 66 第1腹節の長さは先端の中と同じ, 前脛節刺は黄色(前胸前側角は少しく反りかえる, 心形域は細条刻をもつ, 大顎黒, 先端は褐, 触角柄節前面・前胸背の2紋・時に楯板上の一紋等は黄) 体長7—8mm, 欧州・北アフリカ・千島・北海道・本州(木曾駒ヶ岳)・ややまれ
 タイセツギングチ (*Crossocerus varus* Lepeletier et Brullé, 1834)
- 第1腹節の長さは先端の中より大, 体は前種より少し細長く, 前脛節刺は褐色(前種より一層漆黒で青みがかつたつやはない, その他は前種に極めて酷似する) 体長5—7mm, 欧州・朝鮮(本州の記録は疑問)
 モグラギングチ (*Crossocerus tarsatus* (Shuckard, 1837))
 (= *palmipes* auctt., nec Linné, 1767)
- 67 前胸背は平坦なことを原則とし(多少変異がある)前側角は尖って突出する。(図20)(大顎は褐又は黒褐, 前胸背の2紋・前中脛節の先端・後脛節の基部等は黄) 体長7—7.5, 北海道(札幌・定山溪・層雲峡・函館)・本州(仙台・上高地・白山・伊豆・福井勝山)・四国(石鎚), まれ
 ヤスマツギングチ (*Crossocerus yasumatsui* (Tsuneki, 1947))
- 前胸背は平坦でなくその前側角は尖って突出することはない。 68
- 68 上額の正中溝は認めがたい。中胸背後縁部に刻み目はない。(大顎・触角柄節前面・肩板・脚の広い部等は黄) 体長5.5—6mm, 欧州・北アフリカ・北満・朝鮮・北海道・本州, 少ない種だが福井辺では平地にもおる
 トゲアシギングチ (*Crossocerus denticrus* Herrich-Schaeffer, 1841)
- 上額の正中線は明瞭な溝となる, 中胸背後縁にギザがある。 69
- 69 全体黒色でただ触角柄節前面・前脛節の一線・中後脛節の小斑等だけ黄または黄白, 比較的大きい種で7—8.5mm(第1腹節は先端の中より少し長い, 心形域は条刻をもつことが多いが欠くこともある), 北蒙・ウスリー・朝鮮・樺太・北海道・本州(日光・那須・小池)・四国・屋久島, 多くない
 エグレギングチ (*Crossocerus emarginatus* (Kohl, 1915))
 (= *pacificus* Gussakovskij, 1933)
- 体に前種より多くの黄斑があり脚はより広く黄色 70

70 中胸側板は明瞭にかなり密に点条刻がある(第一腹節は先端の中と同長, 心形域は滑沢, 大顎・頭楯は黒色, 通常前胸背に2黄紋があり尾節は全体黒色) 体長4.5—5.2mm, 札幌, まれ

クラゲギングチ (*Crossocerus*) *uchidai* (Tsuneki 1947)

- 中胸側板はほとんど点刻らしいものをもたぬ …………… 71

71 頭部前単眼前方(上額)は細密に点刻され光沢をかく, 頭頂後方はほとんど点刻なく光沢あり, 前胸前縁はやや稜状, 尾域は全体黒(大顎・頭楯の2紋・触角柄節前面・肩板・楯板上の1紋(ないことあり)・附節(先端部は褐色がかかる)。各脛節外面等は黄) 体長5—6mm, 北海道(定山溪)・本州(栃木), 極めてまれ

オタネギングチ* (*Crossocerus*) *opacifrons* (Tsuneki, 1947)

- 上額部は微細密点刻されていない, 多少光沢がある, 前胸背前縁は稜状にならない, 尾域先半は赤褐色(大顎は(少なくとも一部は)黄, 時に頭楯上の2紋・触角柄節前面・前胸の一横帯・肩板・脚の大部等も黄) 体長5—6mm, 欧州・樺太・本州(東京・大阪・福井市)・九州, まれ。

ガケギングチ (*Crossocerus*) *wesmaeli* (Van der Linden, 1829)

術 語 説 明**

(1) 心形域 中節(=前仲腹節)背面の基部に多くの種で溝で囲まれた心臓形の部分があるが, これを Area cordata または Area dorsalis というが, その訳語である。溝で境されない場合でも表面の基礎彫刻の違いによって容易に判定できる。(2) 上額 頭部上面の前単眼より前方の区域をいう。(3) 中胸側歯 中胸側板上, 中脚基節の附着点の前方に1本の歯状突起があることがあり, これをいう。(4) 尾域 腹部末端節の背面に早では明瞭に稜で囲まれた区域があり, *Crossocerus* では亜属の分類の重要な手掛りとされている。これを尾域 pygidial area, Area pygidialis というが, まれには否にも簡単なものがあることがある。(5) 脛節刺 各脛節末端にある通常2本の長い刺毛をいう。時に1本のことがあり時に欠くことがある。

標本作製について

ギングチバチの類では分類に当って頭楯の形や大顎の構造が重要な手がかりとなることが多い。採集したハチをそのまま針に止めたり貼付したりすると, たいてい大顎は閉じた状態となり上記の点が観察不能または困難になる。そこで標本にする時大顎を開けておかななくてはならないが, 採集した日に標本を作ると強直が強くて開かなかったり, むりに開かせても, 枕でもかませぬ限り, 元にもどってしまうことが多い。そこで採集後1—2日ビンの中に入れておき(腐敗のおそれのある時は綿にさせたクレオソートをビンの底に入れておく), 強直のとけるのを待つて大顎を針で左右に分けると, 極めて容易に開いて研究用の標本を作ることができる。この際脚も伸ばしておくことよい。また腹部が垂れるのを防ぐには標本を止めた整理板を立てかけておけばよい。なお翅は展翅する必要はない。なるべく背方に, 前後両翅をバラバラにして, 翼を高くあげた鳥のような姿勢にしておくのが場所もとらずによく, 世界の専門学者の方法である。

なお否は, 針と先細のピンセットを使って Genitalia を引出しておくこと大いに役に立つことがある。これらのことを行うには30倍から50倍の顕微鏡を用いることが必要である。昆虫針は00号のような細いものがよく(国産品はまだない), 5mm以下のものは微針を使うか長三角形の小台紙に背を外にして横向きに貼付する。

* 産地の定山溪小樽内川(オタネガワ)に因む。

** 一般の術語については日本昆虫図鑑の蜂の部の前に出ている解説を参照して頂きたい。